

全国災対連ニュース

2016年10月3日

第118号

発行：災害被災者支援と災害対策改善を求める全国連絡会（略称・全国災対連）

〒113-8465 東京都文京区湯島2-4-4 全労連会館4階 全労連気付 電話03-5842-5611 FAX03-5842-5620

台風10号による豪雨・土砂災害から1ヵ月弱

全国災対連が岩手県岩泉町と久慈市の被災地を視察

8月30日午後6時前に岩手県大船渡市付近に上陸した台風10号は、岩手県沿岸部と県北部に大雨と強風をもたらし、岩泉町で11名、久慈市で1名が亡くなり、多数の家屋や道路に甚大な被害を及ぼしました。全国災対連の笹渡代表世話人（農民連副会長）と川村事務局長（全労連常任幹事）は9月26日、いわて労連の金野議長と中村事務局長、県農民連の岡田事務局長とともに被災地の岩泉町と久慈市の視察を行いました。

小本川の氾濫や土砂災害の惨状を目の当たりに

いわて労連カーに乗り込んだ一行は、盛岡駅前を10時に出発し、岩泉町の被災現場に向かいました。盛岡市と岩泉町を結ぶ国道455号線は一部に片側交互通行区間があるものの、すでに復旧しており約2時間で現地に到着。

途中の北上高地の早坂トンネルを抜けたあたりから様子が一変。小本川の氾濫によって周辺の住宅や納屋など全半壊し、8月末の台風被害の状況そのままの状態が残されていました。



岩泉町では日本共産党の町会議員の林崎章次郎さんから状況を聞きました。岩泉町の住宅被害は、現時点で分かっている範囲で全壊が356、大規模半壊219、半壊148一部損壊33戸。大きな流木が橋にかかって

川を堰き止め氾濫したと話しました。林崎さんは、町の中心部で雑貨屋を営んでいますが、山からの水と小本川の氾濫で床下20センチの被害にあいました。周辺の各施設や住宅の周りには消石灰が散布され、道路わきにはかき出した泥が積まれていました。

住民からの相談も多数寄せられています。ボランティアはまだ不足しているが、片付けなどが進んでいるところと遅れているところのアンバランスがあると言いま



す。また、町の第3セクターで働く非正規の方から「しばらく休んでくれと言われたが、収入がなく困っている」との相談も寄せられていると話しました。

その後、農民連の組合員である葉ワサビ農家を尋ねました。途中、日本三大鍾乳洞の一つ「龍泉洞」の前を通りましたが、台風10号の豪雨によって被災し、閉鎖されていました。

旧牛舎を活用した作業所は、山からの泥水で20センチほどつかり、出荷寸前の葉ワサビ20ケースが水



没し廃棄した
とのことでし
た。作業所の
周りには川も
なく、水は不
足する状況で

あり、こんな事態が起こるとはと驚いていました。

大きな流木が久慈川を堰き止め氾濫

岩泉町を後にして久慈市へ。道路は復旧していますが2時間かかりました。久慈市では、いわて労連・久慈地域労連の外里事務局長ほか2人に対応いただき



ました。資料にもとづいて市内中心部を流れる久慈川の氾濫の状況の説明を受けた

後、市内の事業所の被害状況を視察。

3階建てのビルで営業しているマルエクリーニング店では社長から状況を伺いました。「夜8時ころ水がきた。うちは高くなっているのに、店の前まで来たことはあったが」と話し、1階に置いてあった仕上がり品を



上の棚や二階に移動させていたところ電

気が消え、多数の預かり品が泥で汚れたとのこと。法律では、自然災害での賠償責任は免除されとのことですが、「預かり品の原状回復に最大限努力しないと、信頼がなくなる。従業員にも給料は払うから安心して働いてくれと言っている」と話す社長の横で、従業員の方が衣類の汚れを落とすための洗浄を手作業で行っていました。社長は、「従業員がいるから、投げ出すわけにはいかない」と息子と一緒に再開すると話しました。



地元で63年営業している久慈市で数少ない老舗旅館の「つたや旅館」も2メートル浸水し、畳や壁などが使えないものに。60年前にも水害があったが3年かけて再建したとのことで、「今回もできるだけ早く再建したい」と話しました。

また、床屋さんも「水が引いたのは翌日の午後3時になってから」と、いすも含めて機材はすべて廃棄したと話しました。40年前くらいにも水害があったが、その時は10センチくらいだったとのこと。女性一人

で営業しているとのことでしたが、すでに壁は修繕しており早期に再開したいと話しました。



被災から1か月もたっていない市内中心部ですが、災害ゴミはすでに撤去されていました。商店や工場などの窓ガラスに残っている浸水の痕跡が当時の悲惨な状況を伝えていました。

以上